

各関係機関の長 様

滋賀県病害虫防除所長  
(公印省略)

病害虫発生予察情報(特殊報第1号)の送付について  
このことについて下記のとおり発表したので送付します。

---

平成18年度 病害虫発生予察特殊報 第1号

平成18年(2006年)9月7日  
滋 賀 県

1. 病害虫名: ミカントゲコナジラミ *Aleurocanthus spiniferus* (Quaintance, 1903)
2. 作物名: チャ(ツバキ科)
3. 発生経過
  - (1) 平成18年4月に、茶業指導所内および甲賀市信楽町のほ場でコナジラミの卵、幼虫等を確認したが、個体数が少なかったため、経過を観察していた。
  - (2) 7月下旬頃より、甲賀市信楽町の農家より、コナジラミの成虫が大量発生しているとの相談があり、成虫が茶業指導所に持ち込まれた。8月3日および18日に現地を確認したところ、チャに寄生するコナジラミの成虫、幼虫、卵等を一部の茶園で確認した。生息数が多く、すす病を併発している茶園も見受けられた。
  - (3) 採集及び持ち込まれたコナジラミは、関西大学の宮武頼夫氏によって、ミカントゲコナジラミと同定された。
4. 形態

成虫の体長は雌約1.3mm、雄はやや小さく、体は橙黄色であるが、白粉で覆われているため、外観は灰色に見える。前翅は紫褐色で不整形の白紋がある。卵は長さ約0.2mmで曲玉状であり、短い柄がある。ふ化幼虫は淡黄色で、定着すると光沢のある黒色になる。3齢を経て蛹化する。蛹殻は長さ1mm、光沢のある黒色で、周囲に白色ロウ物質があり、周囲と背面に多数の刺毛を有する。
5. 生態

本種はカンキツ類の害虫として知られているが、チャでは平成16年に京都府南部で初めて生息が確認された。

京都府の調査によると、チャでの本種の成虫の発生は年4回である。3齢幼虫や蛹で越冬し、成虫の発生盛期は越冬世代が5月第4半旬、第1世代が7月第2半旬、第2世代が8月第4~6半旬、第3世代が10月第4~6半旬であった。成虫の寿命は約4日と短い。新葉の葉裏に産卵することが多く、ふ化幼虫は分散せず、群れをなす場合が多い。本種はいくぶん乾燥ぎみの時期に発生が多いとされている。
6. 被害の特徴

京都府の調査によると、成虫及び幼虫による葉の吸汁加害と、幼虫・蛹の分泌物によって夏期以降にすす病が併発し、被害が発生する。また、一番茶摘採期と成虫の発生時期が重なると、収穫作業者が吸引するなどして、不快害虫としての一面も見られる。
7. 寄主作物

カンキツ、ブドウ、カキ、ナシ、ビワ、バラ、ミツバアケビ等の他、多くの樹種に寄生する。本種のチャへの寄生は、京都府以外では報告されていないが、海外では中国及び台湾において記載されている。

## 8. 防除対策

(1) 防除には早期発見が重要であるが、本種の卵および若齢幼虫は微小であり、また葉裏に産卵・寄生するため、発見が遅れ、成虫やすす病が発生するまで発生に気付かないことが多い。また、放任茶園は本種の発生源になる可能性が高い。こうしたことから、本種の発生拡大を抑えるためには定期的な茶園の観察や放棄茶園の適切な管理が重要である。

耕種的防除対策としては、茶園の風通しをよくすること、卵・幼虫・蛹の寄生葉を除去することが考えられる。本種の卵・幼虫・蛹は葉のみで観察され、羽化まで固着生活することから、整せん枝の時期や深さを工夫することで、効果的に寄生葉を除去し、次世代の密度抑制を図る。

(2) 薬剤で防除する場合は、春から秋にかけての若齢幼虫発生期に、ブプロフェジン水和剤(商品名：アプロード水和剤)およびトルフェンピラド乳剤(同：ハチハチ乳剤)を散布する。



写真・左上：ミカントゲコナジラミ（成虫） 右上：卵・幼虫・蛹の寄生葉、  
左下：卵・幼虫・蛹、右下：チャの被害葉(古葉表面にすす病が発生)

## 滋賀県病害虫情報NET

### インターネットで見る病害虫情報

病害虫発生状況・今後の予報と解説などが

いつでもインターネットでご覧になれます

<http://www.pref.shiga.jp/g/byogaichu/>

滋賀県病害虫防除所

〒521-1301

滋賀県蒲生郡安土町大中516

TEL 0748-46-6160

0748-46-4926

FAX 0748-46-5559